

国語

【注意事項】

- ① 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いて中を見てはいけません。
- ② 問題用紙は、この表紙を含め九枚あります。
- ③ 解答用紙の指定の欄に、受験番号、氏名を記入しなさい。
- ④ 解答は、必ず解答用紙に記入しなさい。
- ⑤ 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- ⑥ 試験終了後、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

□

次の文章は志賀直哉「十一月三日午後の事」（一九一九年発表）の全文である。これを読んで後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注 根戸Ⅱ千葉県柏市の地名。以下、本文に登場する地名（固有名詞）は概ねその地のもの。

濠洲行きか何か、船の方がⅡ当時、横浜からオーストラリアのメルボルン行きの船が出ており、その寄港地の一つが長崎であった。
七十三度Ⅱここでは華氏温度（°F）。摂氏（°C）なら二十八度近くになる。

一年志願兵Ⅱ戦前、成人男子に課せられた兵役義務は通例三年間であったが、比較的高学歴な者に限り、かつ装備費用の一部を自己負担するなどの条件を満たせば、それが一年間に短縮される特例制度があった。ここでは志願してその適用を受けた者。

問一 波線部 a↘f の漢字はひらがなに、カタカナは漢字にそれぞれ改めよ。

問二 次のうち、志賀直哉の作品をア↘オの中から一つ、また、文学史上で彼と同じ派に分類される作家の名前をカ↘コの中から一つ、それぞれ選び符号で答えよ。

ア	十三夜	イ	藪の中	ウ	友情	エ	檸檬	オ	和解
カ	幸田露伴	キ	田山花袋	ク	武者小路実篤	ケ	森鷗外	コ	横光利一

問三 傍線部①について、この発言には従弟の抱いたどのような認識が反映されていると考えられるか。最も適切なものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア いかに辛くとも生きていかねばならない人生の不条理さ
イ 個々各人の相違ということを考慮しない軍隊の不合理さ
ウ 装備を十分に調整したうえで出発しない兵隊の無鉄砲さ
エ 末端まで届くように指揮が徹底できない上官の無能力さ

問四 傍線部②について、ここで「石」にたとえられているものは何か。本文中から四文字以内で抜き出して答えよ。

問五 傍線部③「たわいなく」という語の意味を説明せよ。

問六 空欄 A に当てはまる身体の部位を漢字で答えよ。

問七 傍線部④について、ここで「自分」が思った「余りに明か過ぎる事」とはどのようなことを指すと思われるか。本文全体をふまえ、自身の考えるところを記せ。

問八 二重傍線部 A・B・C の各段階において、生物の命を奪うことについて「自分」はどのような意識を持っているか。各段階での「自分」の心境の変化が分かるように述べよ。

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(『土佐日記』)

問一 二重傍線部 a・e の用言について、活用の種類と活用形を答えよ。

問二 波線部 X・Y の助動詞をそれぞれ適切な活用形に改めよ。

問三 本文中より「あり」以外のラ行変格活用動詞を抜き出して答えよ。

問四 傍線部 A・E を、単語の意に忠実に現代語訳せよ。

問五 傍線部 B について、筆者が「楫取」の言葉を印象深く記憶にとどめたのはなぜか。その答えとして適切なものを次から一つ選び符号で答えよ。

ア 黒い鳥と白い波を強く対比した「ものいふやう」な表現が、自分の価値観に合わないものだったから。

イ 黒い鳥と白い波を強く対比した「ものいふやう」な表現が、主人の意向に反するものだったから。

ウ 黒い鳥と白い波を強く対比した「ものいふやう」な表現が、人間の能力を超越するものだったから。

エ 黒い鳥と白い波を強く対比した「ものいふやう」な表現が、楫取の身分に不似合いだったから。

問六 傍線部 C について、このような状態になったのはなぜか、説明せよ。

問七 傍線部 D はどういうことを述べているのか、説明せよ。

問八 本文の作者を漢字で答えよ。また、これと同時代の作品を次から一つ選び記号で答えよ。

ア 十六夜日記

イ 古今和歌集

ウ 風雅和歌集

エ 方丈記

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の都合上、送り仮名・返り点を省略した箇所がある。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

『見聞随筆』

注

無錫Ⅱ地名。江蘇省南部に位置する。

猴Ⅱ猿。

官衙Ⅱ役所、官庁。

籤Ⅱ役人が判決を下す時に地に投げる細い板。

差、差役Ⅱ役人。

上鍊Ⅱ逮捕する。

問一 傍線部①～④の訓読みを送り仮名も含めてひらがなで書け（現代仮名遣いでよい）。

問二 傍線部Aの正しい訓読を以下から選び、番号で答えよ。

- (1) 其の夫を惡み、家に居り、其の欲する所を暢^のばすを得ず。
- (2) 其の夫の家に居るを惡み、其の欲する所を暢^のばすを得ず。
- (3) 其の夫の家に居るを得ざるを惡み、其の欲する所を暢^のばす。

- (4) 其の夫の家に居り、其の欲する所を暢^のばすを得ざるを惡む。

問三 傍線部Bの正しい日本語訳を以下から選び、番号で答えよ。

- (1) 役人は猿の言葉を理解しようとせず、猿に尋ねた「お前には訴えがあるのか」。

- (2) 役人は猿の言葉を理解しようとせず、猿に尋ねた「お前には訴えなどないのだろう」

- (3) 役人は猿の言葉が分からず、猿に尋ねた「お前には訴えがあるのか」

- (4) 役人は猿の言葉が分からず、猿に尋ねた「お前には訴えなどないのだろう」

問四 傍線部Cを「学」の意味に注意しながら全文を現代語訳せよ。